

職業能力開発報文誌

投稿のしおり

職業能力開発報文誌編集委員会

編集委員会事務局（原稿送付先）

〒229-1196 相模原市橋本台 4-1-1

職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター 普及促進室

職業能力開発報文誌編集委員会事務局 宛

TEL 042-763-9155, FAX 042-763-9047

「職業能力開発報文誌」募集要綱

制定 1988 年 7 月
改定 1995 年 6 月
改定 1999 年 4 月
改定 1999 年 10 月
改定 2004 年 4 月
改定 2005 年 4 月
改定 2006 年 4 月
改定 2009 年 4 月

- 1 本誌は、出向者を含む雇用・能力開発機構職員（以下「機構職員」という。）による研究開発活動の充実に資することを目的とし、研究成果を収録公表するための研究機関誌である。収録公表される投稿原稿の内容上の範囲は、職業能力開発研究の学際的性格から、技術・工学及び教育・心理・経済・社会等人文・社会科学系の領域をカバーするが、いずれも職業能力開発との関わりを持つものでなければならない。
- 2 本誌に掲載される投稿原稿は、機構職員によって執筆された、職業能力開発に関する実践・実証的研究を中心とした未刊行の原稿を原則とする。
- 3 本誌の編集は、「職業能力開発報文誌」編集幹事会・編集委員会設置運営規程」（以下「設置運営規程」という。）に基づき設置される編集幹事会及び編集委員会の責任のもとに行われる。
- 4 編集幹事会及び編集委員会の運営等は、「設置運営規程」にしたがって行われる。
- 5 本誌の発行は年 1 回以上とする。
- 6 投稿された原稿は、編集委員会で別に定める「職業能力開発報文誌」編集要領」にしたがって審査し、掲載の可否を決定する。なお、掲載を決定した原稿については、より一層の内容の充実を図るための補筆、修正を原稿投稿者に要請することがある。
- 7 投稿に当たっては、「報文」、「研究ノート」及び「実践報告・資料」の 3 分類で投稿するものとする。なお、掲載に当たっては、編集委員会の審査により投稿分類の変更を投稿者に要請することがある。
- 8 投稿される内容は、「報文」「研究ノート」「実践報告・資料」別に職業能力開発に関して次の条件を満たすことが必要である。
 - (1) 「報文」について
報文は、以下の内容を満たすことが必要である。
 - ① 報文として職業能力開発上価値があること（有用性）。
または、内容に発展性があること（発展性）。
 - ② 内容に新規なものがあること（新規性）。
 - ③ 報文として完結した内容を有していること（完結性）。なお、完結性とは、問題設定、方法、結果、

考察、結論等の諸要素を備えた内容であることをさす。

④内容に基本的な誤りがないこと（信頼性）。

(2)「研究ノート」について

研究ノートは、内容水準、完結性、において未だ不十分ではあるが、職業能力開発上一定の価値があり、研究としての発展性を有すると共に、内容に基本的な誤りがないものであることとする。

(3)「実践報告・資料」について

実践報告・資料は、論文の完結性を必要としないが、情報として、職業能力開発上広く価値を有するものとする。

9 本誌への投稿は随時受け付ける。

10 原稿の執筆は、別に定める「職業能力開発報文誌」執筆要領」によるものとする。

11 投稿者は編集委員会事務局へ以下のものを提出すること。

原稿連絡票 1部（共著者名については、自筆、捺印をすること。）

原稿 3部

※ 査読上重要と考えられるものは、複写または原本を添付する。

12 編集委員会事務局より校閲及び査読終了（掲載可）の連絡を受けた後、以下のものを提出すること。

原稿（紙媒体） 1部

原稿（電子データ） 1部

なお、執筆者は印刷に際して著者校正を行うこと。

13 本誌掲載報文等の執筆者には抜刷を贈呈する。

14 本誌に掲載された報文等の原稿は、原則として返還しない。

15 本誌掲載報文等の一部または全部を、学術研究または教育訓練以外の目的で、複製または転載する場合には、当編集委員会の許可を必要とする。

16 「職業能力開発報文誌」編集委員会事務局を職業能力開発総合大学校能力開発研究センターに置く。

原 稿 連 絡 票

1. 投稿原稿の表題 (和文)

--

2. 投稿者(連絡者)の氏名、勤務先、連絡先

フリガナ		電 話	()
氏 名		メー ル ア ド レ ス	
勤務先名称			
連絡先住所	〒		

3. 連名投稿者 [投稿者(連絡者)は共著者の同意(署名捺印)を下欄に得てください]

氏 名	所 属	印	氏 名	所 属	印

4. 投稿の種類 [下欄の番号に○印をつけて下さい]

種 別	1	報 文	2	研 究 ノ ー ト	3	実 践 報 告 ・ 資 料

5. 内 容 (職業能力開発に関する分野)

職業能力開発に関する分野の内、最も関連する内容と思われるものから、下欄の表の番号に○印をつけて下さい。

なお、5 職業能力開発に関する工学的内容および6 その他に該当する場合は、() の中に簡単に記述して下さい。

No.	職 業 能 力 開 発 に 関 す る 分 野
1	職業能力開発制度に関する内容 (職業能力開発のあり方、職業能力開発施設、関連法律等の内容)
2	教育訓練実施に関する内容 (カリキュラム、指導技法、コース開発、相談・援助、教材開発、評価等の内容)
3	職業能力開発の社会的諸問題に関する内容 (若年者・在職者・高齢者・女性等の内容)
4	職業能力開発に関する国際協力等の内容 (諸外国の職業能力開発、諸外国及び国内での国際協力等の内容)
5	職業能力開発に関する工学的内容 (工学的専門分野：)
6	その他 ()

6. 仕上がり概算ページ数 (原則下記のページ数とする。) _____ ページ

「報文」は8ページ以内、「研究ノート」は4ページ以内、「実践報告・資料」は6ページ以内

7. 投稿原稿の公開状況の確認

(ロ、ハに該当される方は、該当箇所○印をつけて雑誌名等記入願います。)

- イ 未発表(刊行)原稿 _____
- ロ 発表(刊行)済原稿(下記(注)①) 雑誌名等 ()
- ハ 発表(刊行)済原稿(下記(注)②) 雑誌名等 ()

(注) ① 紀要、職業能力開発研究発表講演会、実践教育訓練研究会の発表及び会誌、技能と技術誌で公開した内容であっても、校閲・査読を受けていない原稿

② 学会論文誌、論文コンクール入賞作、専門雑誌、一般出版物で公開した原稿

「職業能力開発報文誌」執筆要領

制定 1998年7月

改正 2003年7月

改正 2006年4月

改正 2007年4月

改正 2008年4月

改正 2009年4月

1 原稿全体の体裁・原稿のページ数について

原稿はワープロソフトで作成し、A4判用紙を縦にして用い、2段組、1行24文字×45行横書きとする。1ページの文字数は2160字とする。余白については上30mm、下25mm、左25mm、右25mmとする。原稿の1ページ目の15行までを表題等の記入に充て、次に要約、本文の順に記述する。2ページ目以降については本文のみとし、最終ページに注記、参考文献を記載する。

(1) 仕上がりページ数 (原則)

- ①「報文」の場合 - 8ページ
- ②「研究ノート」の場合 - 4ページ
- ③「実践報告・資料」の場合 - 6ページ

(2) 図表、写真等は本文に貼り付け、全体で(1)のページ数を満足すること。

2 表題等

原稿の1ページ目にカテゴリ分類(**Pゴシック 14P 太字**)、日本語表題(**Pゴシック 22P 太字**)、日本語副題(**Pゴシック 16P 太字**)、所属施設名および著者名・共著者名(明朝 10P)、英語表題(Times New Roman 11P)、著者名・共著者名(ローマ字名 Times New Roman 11P)の順に記述すること。なお、表題は簡潔にかつ内容が明確にわかるように心がけること。

3 要約

要約の二文字は「**Pゴシック 11P 太字**」、要約本文は「明朝 9P」を用いる。43字×14行、600字以内、日本語を用いること。

4 本文

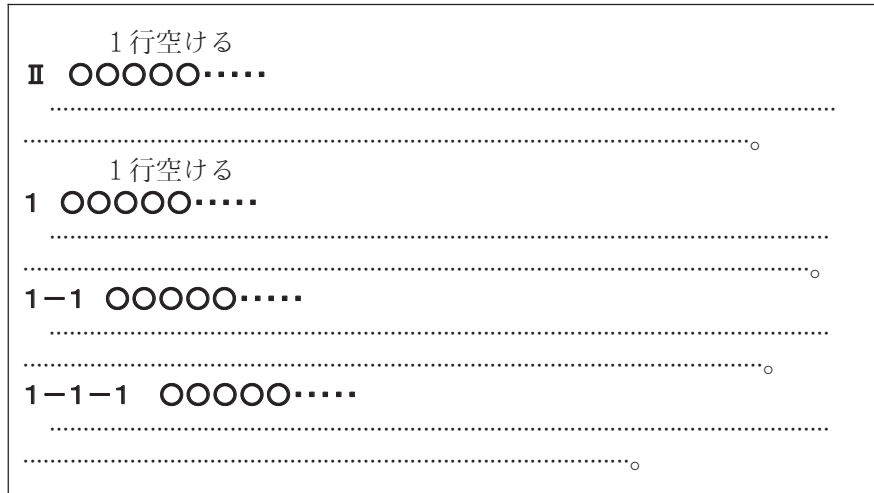
(1) 本文の節タイトルおよび小節タイトル

節番号は「**ローマ数字(I、II、III、…)**Pゴシック 11P 全角 太字」を、節タイトルは「**Pゴシック 11P 太字**」を用い、「**II ○○○○……**」のように記述する。その前後を1行空ける。

小節番号は「**算用数字(1, 2, 3, …)** Pゴシック 11P 全角 太字」を、小節タイトルは「**Pゴシック 11P 太字**」を用い、「**1 ○○○○……**」のように記述する。1行に納め、その前を1行空ける。

さらに細目が必要な場合は、「**Pゴシック 11P 全角 太字**」を用いて、「**1-1 ○○○○……**」「**1-1-1 ○○○○……**」のように記述する。細目番号は「**算用数字 Pゴシック 11P 全角 太字**」を用いる。

<記述例>



(2) 「はじめに」と「おわりに」について

本文の初節に「I はじめに」を、終節に「O おわりに」を記述する。

(3) 図および写真について

- ①図は原稿内に作成すること。大きさは原稿用紙の収まる範囲内であれば執筆者の任意とする。
- ②図中の文字や数字は明瞭に判読できること。
- ③写真は JPEG 形式（1MB 程度）で貼り付けること。
- ④写真をデジタルデータ化できない場合は、原稿に貼り付ける際のサイズを明記し、場所を空けておくこと。写真は原稿と同時に提出すること。
- ⑤図および写真の番号は「算用数字 Pゴシック 9P 半角 太字」を、タイトルは「Pゴシック 9P 太字」を用いて、図あるいは写真の下に横書きで、「図1 …」のように番号を記した後にタイトルを記入する。図と写真は通し番号とする。
- ⑥写真の印刷仕上がりは白黒であるが、提出はカラーでも可である。

(4) 表について

表は原稿内に作成すること。サイズは、原稿用紙に収まる範囲内であれば執筆者の任意とする。表番号は「算用数字 Pゴシック 9P 半角 太字」を用いて、タイトルは「Pゴシック 9P 太字」を用いて、表の上に横書きで、「表1 …」のように番号を記した後に表名を記入する。表中の文字や数字は明瞭に判読できること。

(5) 引用資料について

本文中に入れる資料等の引用文章を、文字のポイント数を落として記述したい場合は、その部分に赤線でアンダーラインを引き、注記する。

なお、引用資料及び参考文献等で入手が困難な場合は、投稿時に、その原本または複写したものを添付する（校閲及び査読終了後返却）。

5 注記について（記述例参照）

本文中にハイフンで挟んで入れる注以外の注記は、一括して本文の最後に次の要領で書くこと。タイトル[注]の文字は「Pゴシック 9P 太字」を用い、「注」の文字の左右を「[]」で括る。（注1）以下は「明朝 9P」を用い、「注○」の文字の左右を括弧でくくる。注記番号は「算用数字 Times New Roman 9P」を用いる。

<記述例>

【注】
(注1) ……………
(注2) ……………
…
…

なお、本文中においては、注記番号は注記をつける言葉または文の右肩に、「○○^(注1)」のように、左右を括弧でくくり、上付で書く。

6 参考文献について（記述例参照）

参考文献は一括して本文の最後に、次の要領で書く。タイトル**【参考文献】**の文字は「**Pゴシック 9P 太字**」を用い、「**参考文献**」の文字の左右を「**[]**」で括る。(1) 以下は「明朝 9P」を用いる。文献番号は「算用数字 Times New Roman 9P」を用いる。

本文中においては、文献番号は参考文献をつける言葉または文の右肩に、「○○⁽¹⁾」のように、左右を括弧でくくり、上付で書く。ページは「p.○○」、複数の場合は「pp.○○-△△」のように書く。

<記述例>

【参考文献】
(1) □□職業能力開発審議会△△、「……」、平成…年、p. ○
(2) 職業能力開発総合大学校能力開発研究センター 調査研究
報告書「……」、平成…年、pp. ○○-△△…
…
…

7 文中の文字について

- (1) 本文は、日本語を用いること（他言語不可）。
- (2) 本文は、「である調」とする。
- (3) 句読点は「、」「。」を用いる。
- (4) できるだけ常用漢字、現代かな使いを用いる。
- (5) 日本語のフォントは「明朝 9P」とする。
- (6) 英文、英略字（ME、CAI等）は「Times New Roman」を用いる。

[例] ME、CAI、

Summary of the Results of the “Study on the Development…………”

- (7) 数字は「算用数字 Times New Roman」を用い、3桁毎にコンマを入れる（但し、西暦年代にはコンマは不要）。また、漢字と結合して使用する場合は漢数字を用いる。

[例] 1,050円、15.4%、3,213,000人、2009年2月14日
一つの、一例を挙げると

8 単位・記号・数値等について

- (1) 単位は原則として国際単位系（SI）を用いる。数字は「算用数字 Times New Roman」を用い、単位記号は「Times New Roman」を用いる。

[例] 5MPa、9.8N

(2) 量を表す数字は「算用数字 Times New Roman」を、量を表す記号は「Times New Roman」の斜字体を用いる。

[例] 量を表す数字 20、15.4、3,213,000
量を表す記号 $a, b, c, d, \dots, u, v, z, y, z$

9 数式について

(1) 数式は「Times New Roman」の斜字体を用い、大文字・小文字・上付・下付などがはっきりわかるように記述する。

(2) 式中での括弧の順序は原則として { [()] } とする。

(3) 式が途中で切れる場合は、改行のはじめに $\times \cdot / \cdot + \cdot -$ 等をつける。

(4) 数式は各式の右端に …… (1)、…… (2) のように通し番号をつける。本文中では式(1)、式(2)のように記述する。式番号は「算用数字 Times New Roman 9P」を用いる。

(6) 分数については、式中では $\frac{a+b}{c+d}$ 、文中では $(a+b)/(c+d)$ のように入力する。

< 数式の記述例 >

$$S_2 - S_1 = \int_1^2 \frac{dQ}{T} \quad \dots\dots\dots(1)$$

$$\dot{m} = P_c A_t \sqrt{\frac{\gamma}{RT_c} \left(\frac{2}{1+\gamma} \right)^{\frac{\gamma+1}{\gamma-1}}} \quad \dots\dots\dots(2)$$

なお、日本語ワープロの「数式エディタ」などを活用すると、容易に数式を書くことができる。

10 記述例

執筆は次項以降の「文字の大きさ及びフォント等」及び「記述例」を参照のこと。

文字の大きさ及びフォント等

カテゴリ分類	Pゴシック	14P	全角	太字	左詰め
日本語表題	Pゴシック	22P	全角	太字	中央揃え
副題	Pゴシック	16P	全角	太字	中央揃え
所属施設名、部署名、 著者名、共著者名	明朝	10P	全角		右詰め
英語表題、副題、著者 名、共著者名	Times New Roman	11P	半角		
要約タイトル	Pゴシック	11P	全角	太字	左詰め
要約本文	明朝	9P	全角		左詰め
本文	明朝	9P	全角		
本文 節番号	Pゴシック(ローマ数字)	11P	全角	太字	左詰め
本文 節タイトル	Pゴシック	11P	全角	太字	左詰め
本文 小節番号	Pゴシック(算用数字)	11P	全角	太字	左詰め
本文 小節タイトル	Pゴシック	11P	全角	太字	左詰め
英文・英略字	Times New Roman	9P	半角		
数字	Times New Roman(算用数字)	9P	半角		
数式	Times New Roman斜字体 (=イタリック)		半角		
図・写真 番号	Pゴシック(算用数字)	9P	半角	太字	図・写真の下中央
図・写真 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	
表 番号	Pゴシック(算用数字)	9P	半角	太字	表の上中央
表 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	
注 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	左詰め
注 番号	Times New Roman	9P	半角		左詰め
注 記述部分	明朝	9P	全角		左詰め
参考文献 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	左詰め
参考文献 番号	Times New Roman	9P	半角		左詰め
参考文献 記述部分	明朝	9P	全角		左詰め

カテゴリ分類:
Pゴシック 14P 太字 左詰め

日本語表題:
Pゴシック 22P 太字
中央揃え

<実践報告・資料>

職業能力開発報文誌投稿原稿執筆要領

英語表題・副題及び著者名・共著者名(ローマ字名):
Times New Roman 11P
表題の上下に罫線を引く
英語表題・副題は左詰め
著者名・共著者名は右詰め

一記述例一

日本語副題: Pゴシック 16P 太字
左右に「-」を付ける、中央揃え

所属施設名、部署名、
著者名、共著者名:
明朝 10P、右詰め

◎◎職業能力開発促進センター 職大 太郎
△△職業能力開発大学校 能開 花子

Guidance for writing papers of BULLETIN OF HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT - Example -
Taro SHOKUDAI, Hanako NOUKAI

要約

◎◎職業能力開発促進センター、△△職業能力開発大学校では、.....

要約タイトル:
Pゴシック 11P
太字、左詰め

要旨本文: 明朝 9P、
43文字×14行、
600字以内、左詰め、
横位置は用紙の中央に配置

I はじめに

本文節:
節番号はローマ数字 Pゴシック
11P 全角 太字
タイトルは Pゴシック 11P 太字
左詰め、前後を1行空ける。

III ○○○○○○○○○○

1 ○○○○○○○○○○

本文小節:
小節番号は 算用数字 Pゴシック 11P 全角 太字
タイトルは Pゴシック 11P 太字
左詰めで1行に納める。前を1行空ける。

2 ○○○○○○○○

本文: 2段組、明朝 9P、
24文字×15~20行程度(行数は、
要旨の文字数等により変わる)
英文・英略字は Times New Roman、
数字は 算用数字 Times New Roman
を用いる。

II ○○○○○○○○○○

$$S_2 - S_1 = \int_1^2 \frac{dQ}{T} \dots\dots(1)$$

$$\dot{m} = P_c A_t \sqrt{\frac{\gamma}{RT_c} \left(\frac{2}{1+\gamma} \right)^{\frac{\gamma+1}{\gamma-1}}} \dots\dots(2)$$

数式は Times New Roman の斜字体
を用い、大文字、小文字、上付、下付
などがはっきりわかるように区別する。
式番号は Times New Roman を用いる。

論文受付日 H21.4.1

論文受付日: 事務局で記入

V ○○○○○○○○○○

1 ○○○○○○

本文:2段組、明朝 9P、
24文字×45行、1ページ2160文字
英文・英略字は Times New Roman、
数字は 算用数字 Times New Roman を
用いる。

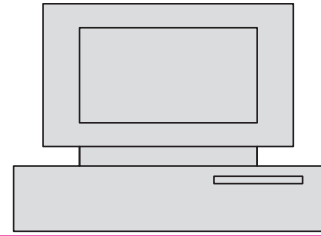
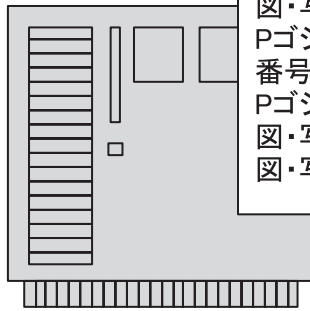


図6 △△△△△△△△△△△△△△



図・写真:タイトルは
Pゴシック 9P 太字、
番号は算用数字
Pゴシック 9P 太字半角、
図・写真の下に記入、
図・写真は通し番号

図5 △△△△△△△△△△△△△△

VI おわりに

注:タイトルは
Pゴシック 9P 太字

注:明朝 9P
注釈番号はTimes New Roman 9P

[注]

- (注1) A社における開発部は、製品の企業開
- (注2) A社の製品製造事業部は…

参考文献:タイトルは
Pゴシック 9P 太字

[参考文献]

- (1) ○○県企業庁発行、○○県中小企業支援事業計画、19××年□月、pp.△△-○
- (2) 職業能力開発総合大学校能力開発促進センター、調査研究報告書第△△号「職業能力開発に関する相談援助、情報提供の実態調査」、平成○年×月、pp.□□-
- (3) 著者名、論文名、誌名、号数、**年、p.△△
- (4) 著者名、書名、出版社名、○○年、pp.◇◇-□□

資料等の場合

報告書等の場合

論文誌等の場合

書籍等の場合

表:タイトルは
Pゴシック 9P 太字、
表番号は 算用数字
Pゴシック 9P 太字 半角、
表の上に記入

表3 △△△△△△△△△△△△△△

人数	1995年		1998年		2000年		2004年		2006年		2008年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
正社員												
非社員	契約社員											
	パート											
	アルバイト											

参考文献:明朝 9P
文献番号は Times New Roman 9P

平成21年度職業能力開発報文誌編集幹事・編集委員一覧

編集幹事座長兼編集委員長

川村 英治 職業能力開発総合大学校能力開発研究センター所長

編集幹事（敬省略 五十音順）

木村 亨 山口センター統括所長

塩田 泰仁 職業能力開発総合大学校 長期課程部長

瀧原 祥夫 機構本部 大学校部 業務課長

谷垣 昌敬 近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校長

辻 恒平 青森センター統括所長

坪内 茂樹 東海職業能力開発大学校附属浜松職業能力開発短期大学校長

松留慎一郎 職業能力開発総合大学校 研究課程部・応用研究課程部長

蓮覚寺聖一 北陸職業能力開発大学校長

編集委員（敬省略 五十音順）

安中 宏 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター（情報系）

奥秋 清次 職業能力開発総合大学校 東京校（情報系）

清水 洋隆 職業能力開発総合大学校 電気システム工学科（電気系）

鈴木 良行 関東職業能力開発大学校附属千葉職業能力開発短期大学校（建築系）

出来 俊司 愛知センター 中部職業能力開発促進センター（機械系）

藤森 充 関東職業能力開発大学校（電子系）

山本 明慶 近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校（機械系）

吉野 恵樹 東北職業能力開発大学校（建築系）